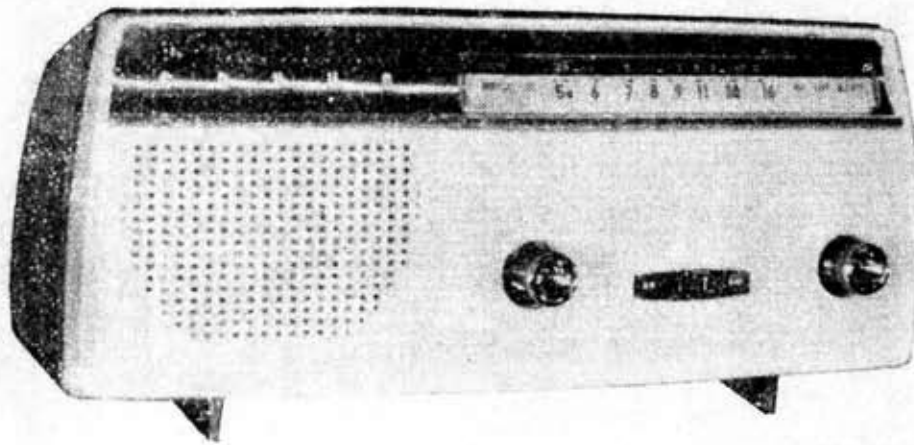


サンヨー 6石 1 Band 6S-08



回路構成

6石、3ダイオードの2バンドで、低周波が1段となつている。局部発振回路は自励を使つているが、とくに短波帯では、1N60を1本用いて局発の制御を行なつていることがわかる。

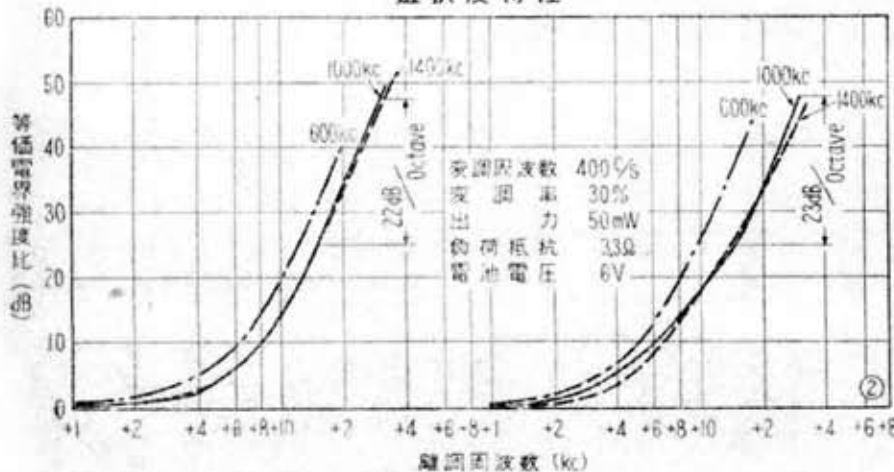
スピーカは12cmの円形で、電源は6V。

測定結果をみて

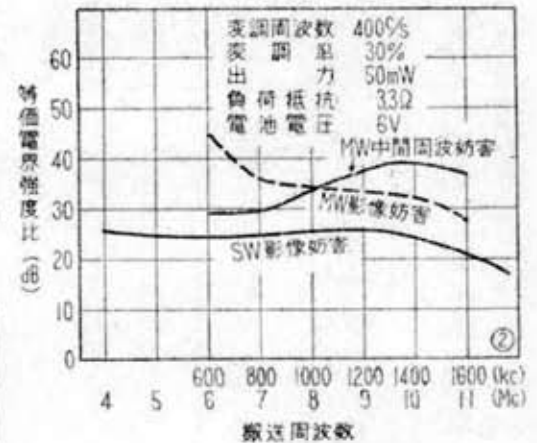
特性結果で、感度特性は中波の実用感度で1000kc以上がふつうだが、800kc以下が少しおちている。しかし、6石で2バンドに細工している苦心は買えるし、石数が少ないため感度の低下は多少やむを得ないというところか。

選択度特性

(第1図)

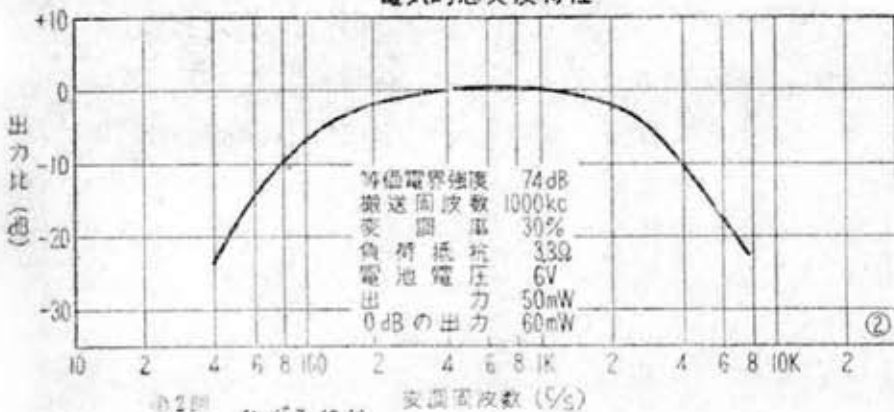


妨害比特性

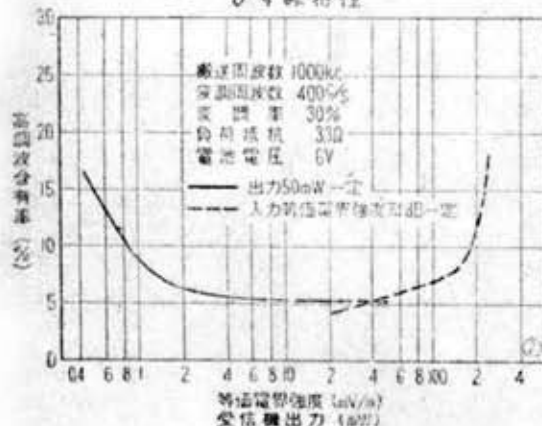


(第5図)

電氣的忠実度特性

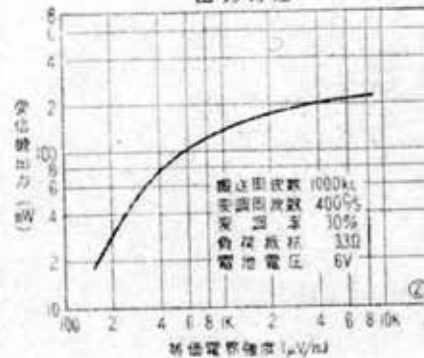


ひずみ特性

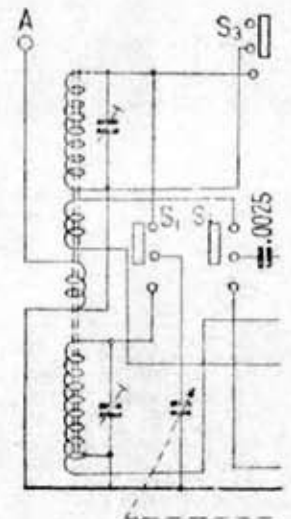


(第3図)

出力特性



(第4図)



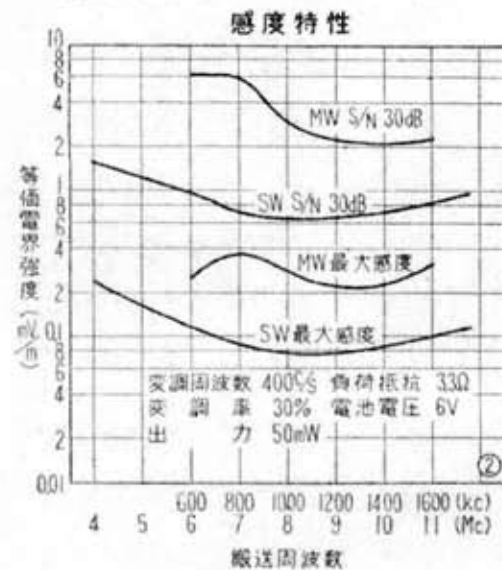
正 価 9,850 円

短波は一般的傾向で、感度差も実用上さしつかえない値である。

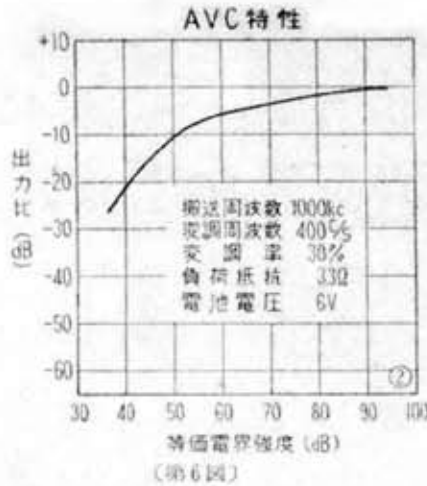
出力は、無ひずみで180mWだから十分。妨害比もイメージ、中間周波とも悪くない。

選択度特性は左右少し不釣り合いだが、帯域幅は10kcもあつて広く。良好な音質が期待できる。

ひずみは、他機にくらべ少し出ているが、電気的忠実度はふつうである。AVCは43dBあつてよくきいている。AVCの重要さは、日本では余り重視されていない観があるが、海のむこう、特にアメリカの大都会などで強電界の地域ではAVCのきかないセットは実用にならないというトラブルが



第8図

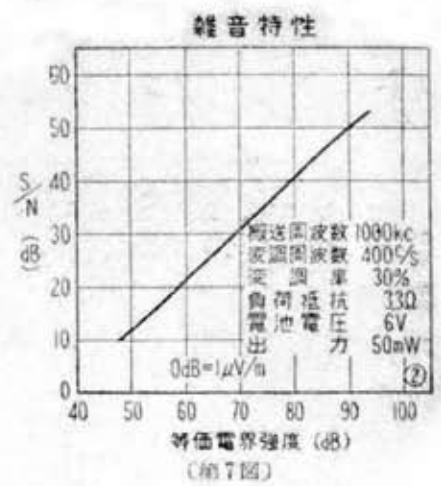


第6図

普通であるが、カーラジオのように電界強度の異なる地域を走るまわるものではもちろん重要視される。本機のようなセットでもピクニツクなどポータブルとしての機能をもっているから閉視できない特性である。

その他

外観は、2トンカラーに金色を入れて豪華さを狙ったモダンなもの。ダイヤルの目盛は小さいが、ツマミは軽くてあつかいやすくできて

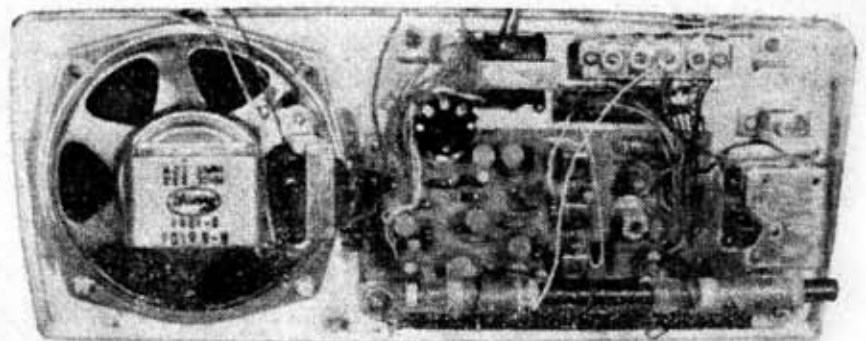


第7図

いる。また、本機のみの特徴としてハンデイに便利のようにキャビネットと同色のパネ式のプラスチック取手がついているのは親切といえる。キャビの加工に十分な配慮がみえる。

バリコンはエアーの中型で、電池は単一を使用している。配線はプリント基板で、IFTは100mm角である。中短波の切換えも使いよくなっている。

寸法 幅330×高153×奥行115mm



＜本機のカバーを取外した裏面外観＞

